

公表

事業所における自己評価総括表

○保護者評価実施期間	2025年 1月 31日		～	2025年 2月 14日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数)	43	
○従業者評価実施期間	2025年 1月 31日		～	2025年 2月 7日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	16	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 7日				

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員全員が子どもたちと保護者を中心に捉え、日々一人ひとりの子どものことを話し合い実践している。	・朝礼の時間をつかってクラスの困り感を具体的に出し、職員全員で話し合うようにしている。そこで共通認識を図ることを積み重ねている。	朝礼以外の児発管とクラスの話し合いでの個別的ケースの気づきを、他クラスの職員にも提供しさらなる質の向上を目指したい。
2	・職員全員がスピード感があり、即行動に移すことができる。	・連絡相談報告について、朝礼時にその内容を必ず時間としてとることで、相談しやすく、そして即実践できる内容を検討するようになってきた。	・朝礼時に提供した以外のクラスでの対応の情報を交換する時間をつくり、さらに学びの機会がつけられるとよい。
3	・通園して下さっている保護者の方たちも、子どもの成長のためという気持ちで職員と共に歩んでくださっている。	・個別指導やクラス懇談会、また今年度から始めた保護者の家庭支援グループの取り組みを通して、子どもを中心とした話し合いを積み重ねてきた。	・左記の保護者の家庭支援グループの取り組みは、保護者にとって評価が高かったので、引き続き取り組みを継続し、今年度は単独通園のみだったが、来年度は親子通園の保護者にも枠を広げ取り組むとよい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童発達支援センターとしての役割である地域の事業所との連携強化の取り組みが始まったばかりのため、まだ児発管以外の職員の意識改革まで及ばず、当センター内で完結しているため改良が必要である。	・今年度より市内の児童発達支援センター三施設で左記の取り組みに着手したが、職員派遣をする上での時間帯、時期等の検討の上、今年度は難しかった。大きな要因として考えられるのは、正職員の人数の問題が大きい。	・職員の確保とそれと同時に職員の育成が必要と考える。
2	・職員の努力により子どもや保護者が少しでも満足できる療育を提供することができるようになったが、職員の仕事量、時間の使い方の課題がある。	・個別支援計画、就学サポートシート、記録用紙、行事のマニュアル作成など、療育の質を落とさず、さらに向上できるように、一方で職員の負担軽減のため工夫や多くの改良に取り組んできたが、まださらなる改良に努める必要がある。	・左記の改良をさらにすすめていくが、一方で本来の最も大切にしていかなければいけない療育の現状よりもさらに質の向上も並行に進めていく必要がある。
3	・保護者支援について職員が自分のクラスの子どもの保護者により適切な個別的指導ができるように研修等で指導をしていく必要がある。	・職員にとって様々な背景を持つ保護者への個別的支援は難しく、負担も大きいため今年度は、当園例年の個別指導時間の約半分を児発管が担い、それを職員にフィードバックしてきた。しかし、その職員の研修としての時間をあらためてとることができなかった。	・今年度の保護者支援に関しては、保護者からの評価もいただいたことから、今後、そこで試行して効果がでたことに関して、各クラスの職員にも具体的指導ができる時間確保のため上記2に取り組む必要がある。